

2011年度  
決算説明資料

2012年5月9日  
旭化成株式会社

## 1. 2011年度実績

主要決算数値	P4～P5
連結損益計算書	P6
金融収支・有利子負債残高	P7
特別損益	P8
セグメント別売上高・営業利益	P9～P12
連結貸借対照表	P13
連結キャッシュ・フロー計算書、 設備投資額、減価償却費、研究開発費	P14

## 2. 2012年度業績予想

当期の業績予想	P16
セグメント別売上高・営業利益	P17～P19
セグメント別業績推移	P21～P22
セグメント別設備投資額、 減価償却費、研究開発費	P23
設備投資件名	P24
セグメント別概況	P25～P37
連結包括利益計算書	P38

## 3. 参考資料

セグメント別業績推移	P21～P22
セグメント別設備投資額、 減価償却費、研究開発費	P23
設備投資件名	P24
セグメント別概況	P25～P37
連結包括利益計算書	P38

**業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項**

上記の連結業績予想には、本資料の発表日現在の将来に関する前提や見通し、計画に基づく予想が含まれています。  
当該予想と実際の業績の間には、今後の様々な要因によって大きく差異が発生する可能性があります。

# 1. 2011年度実績

# 主要決算数値(1)

(億円)

	10年度	11年度		対前年度 (b-a)		対最新予想 (b-c)	
	a	実績 b	最新予想* <sup>2</sup> c	増減額	増減率	増減額	増減率
売上高* <sup>1</sup>	15,559	15,732	16,240	173	1.1%	-508	-3.1%
営業利益	1,229	1,043	1,040	-187	-15.2%	3	0.2%
経常利益	1,182	1,076	1,040	-107	-9.0%	36	3.4%
当期純利益	603	558	530	-45	-7.5%	28	5.2%

\*1 今回よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡って売上高から同取引相当額を控除している。(ナフサ転売の取引額:2010年度 424億円、2011年度 397億円)

一旦仕入れたナフサを転売し、代わりにより有用なナフサを仕入れることで原料品質及びコストの改善を図っている。この転売に関する会計処理については、転売額を「売上高」、転売の対象となったナフサの仕入額を「売上原価」に表示していたが、当該「売上高」と「売上原価」を相殺処理し、その相殺後の金額を「売上原価」に含めて表示する方法に変更した。

\*2 2012年2月3日発表の業績予想(ナフサ転売取引額控除前ベース)

	11/3月末	12/3月末	増減
総資産	14,259	14,106	-153
自己資本	6,636	7,068	433
有利子負債残高	2,539	1,841	-698
D/Eレシオ	0.38	0.26	-0.12

## 主要決算数値(2)

	10年度	11年度
1株当たり当期純利益(EPS)	43.11 円	39.89 円
1株当たり年間配当金	11 円	14 円
配当性向	25.5 %	35.1 %
総資産利益率(ROA)	4.3 %	3.9 %
自己資本利益率(ROE)	9.3 %	8.1 %
1株当たり純資産(BPS)	474.59 円	505.72 円

### <連結対象範囲>

連結子会社数	101	105
持分法適用会社数	49	46

ナフサ価格(国産ナフサ:¥/kl)	47,475	54,925
為替レート(相場平均:¥/US\$)	86	79

期末人員	25,016 人	25,409 人
------	----------	----------

# 連結損益計算書

(上段:百分率、% 下段:金額、億円)

	10年度	11年度	増減	増減率
売上高*1	100.0% 15,559	100.0% 15,732	173	1.1 %
売上原価*1	74.0% 11,512	74.9% 11,790	278	2.4 %
売上総利益	26.0% 4,047	25.1% 3,943	-105	-2.6 %
販管費	18.1% 2,818	18.4% 2,900	82	2.9 %
営業利益	7.9% 1,229	6.6% 1,043	-187	-15.2 %
営業外損益	-47	33	80	
(内、金融収支)	( 0 )	( 14 )	( 14 )	
(内、持分法投資利益)	( 22 )	( 7 )	( -15 )	
(内、為替差損)	( -39 )	( -2 )	( 37 )	
(内、固定資産撤去費用 引当金戻入額)	( - )	( 22 )	( 22 )	
経常利益	7.6% 1,182	6.8% 1,076	-107	-9.0 %
特別損益	-199	-127	72	
税前利益	6.3% 983	6.0% 949	-35	-3.5 %
法人税等	-367	-380	-13	
少数株主損益	-14	-11	3	
当期純利益	3.9% 603	3.5% 558	-45	-7.5 %

\*1 今回よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡って売上高及び売上原価から同取引相当額を控除している。  
(ナフサ転売の取引額:2010年度 424億円、2011年度 397億円)

## (1) 金融収支

(億円)

	10年度	11年度	増減
支払利息	-33	-27	6
受取利息	11	14	3
受取配当金	23	27	5
その他	-1	-1	0
合 計	0	14	14

## (2) 有利子負債残高

(億円)

	11/3月末	12/3月末	増減
短期借入金	1,089	745	-344
コマーシャル・ペーパー	230	150	-80
長期借入金	917	627	-290
社債	250	250	-
リース債務	53	69	16
合 計	2,539	1,841	-698

# 特別損益

(億円)

	10年度	11年度	増減
投資有価証券売却益	4	2	-2
固定資産売却益	5	5	0
貸倒引当金戻入額	1	-	-1
事業譲渡益	7	-	-7
段階取得に係る差益	-	23	23
特別利益	17	30	13
投資有価証券売却損	4	-	-4
投資有価証券評価損	7	19	12
固定資産処分損	49	35	-13
減損損失	24	5	-19
環境対策費	12	3	-9
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	12	-	-12
災害による損失	8	10	2
事業構造改善費用	100	85	-16
特別損失	216	157	-59
特別損益	-199	-127	72

# セグメント別売上高・営業利益(1)

(億円)

	売上高*1			営業利益			11年度最新予想	
	10年度	11年度	増減	10年度	11年度	増減	売上高*2	営業利益
ケミカル	6,998	6,801	-197	644	445	-199	7,280	450
住宅	4,092	4,520	427	365	463	99	4,530	470
医薬・医療	1,164	1,195	31	70	88	18	1,200	90
繊維	1,088	1,108	21	42	31	-11	1,110	30
エレクトロニクス	1,583	1,461	-122	143	64	-78	1,470	55
建材	474	461	-13	21	18	-3	460	15
その他	160	186	25	17	30	13	190	30
消去又は全社	-	-	-	-72	-97	-25	-	-100
合計	15,559	15,732	173	1,229	1,043	-187	16,240	1,040

\*1 今回よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡ってケミカルの売上高から同取引相当額を控除している。(ナフサ転売の取引額: 2010年度 424億円、2011年度 397億円)

\*2 2012年2月3日発表の業績予想(ナフサ転売取引額控除前ベース)

# セグメント別売上高・営業利益(2)(海外売上高) **AsahiKASEI**

(億円)

	10年度			11年度			増減	
	売上高*1	海外売上高		売上高*1	海外売上高		海外売上高	
		金額	比率(%)		金額	比率(%)	金額	伸び率(%)
ケミカル	6,998	3,045	43.5%	6,801	2,811	41.3%	-234	-7.7%
住宅	4,092	-	-	4,520	-	-	-	-
医薬・医療	1,164	266	22.9%	1,195	285	23.9%	19	7.1%
繊維	1,088	374	34.4%	1,108	354	31.9%	-20	-5.3%
エレクトロニクス	1,583	796	50.3%	1,461	742	50.8%	-54	-6.8%
建材	474	-	-	461	-	-	-	-
その他	160	12	7.5%	186	24	12.7%	12	96.0%
合 計	15,559	4,493	28.9%	15,732	4,215	26.8%	-278	-6.2%
東アジア地域*2への売上高		2,949	19.0%		2,692	17.1%	-257	-8.7%
(内、中国への売上高)		1,696	10.9%		1,513	9.6%	-184	-10.8%

## <参考>

住宅・建材を除いた売上高                      10,993    4,493    40.9%    10,751    4,215    39.2%

\*1 今回よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡ってケミカルの売上高から同取引相当額を控除している。(ナフサ転売の取引額: 2010年度 424億円、2011年度 397億円)

\*2 中国、韓国、台湾

# セグメント別売上高・営業利益増減要因(1)

(億円)

		10年度	11年度	増減	内訳				
					数量差	売値差	うち為替因	その他差	コスト差等
ケミカル	売上高 <sup>*1</sup>	6,998	6,801	-197	-322	196	-129	-70	-
	営業利益	644	445	-199	-35			-	-360
住宅	売上高	4,092	4,520	427	465	-4	-	-34	-
	営業利益	365	463	99	150			-	-47
医薬・医療	売上高	1,164	1,195	31	74	-23	-7	-20	-
	営業利益	70	88	18	43			-	-3
繊維	売上高	1,088	1,108	21	14	7	-20	0	-
	営業利益	42	31	-11	0			-	-18

\*1 今回よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡って売上高から同取引相当額を控除している。(ナフサ転売の取引額: 2010年度 424億円、2011年度 397億円)

# セグメント別売上高・営業利益増減要因(2)

(億円)

		10年度	11年度	増減	内訳				
					数量差	売値差	うち為替因	その他差	コスト差等
エレクトロニクス	売上高	1,583	1,461	-122	23	-149	-27	3	-
	営業利益	143	64	-78	46			-	24
建材	売上高	474	461	-13	-14	1	-	0	-
	営業利益	21	18	-3	-5			-	1
その他	売上高	160	186	25	25	0	0	0	-
	営業利益	17	30	13	10			-	2
消去又は全社	営業損失	-72	-97	-25	-	-	-	-	-25
合計	売上高*1	15,559	15,732	173	266	27	-182	-120	-
	営業利益	1,229	1,043	-187	210			-	-424

\*1 今回よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡ってケミカルの売上高から同取引相当額を控除している。(ナフサ転売の取引額:2010年度 424億円、2011年度 397億円)

# 連結貸借対照表

AsahiKASEI

(億円)

	11/3月末	12/3月末	増減		11/3月末	12/3月末	増減
流動資産	7,557	7,218	-339	負債*1	7,503	6,913	-590
現金及び預金	1,403	1,029	-374	流動負債	4,838	4,496	-342
受取手形及び売掛金	2,734	2,661	-74	固定負債	2,665	2,417	-248
棚卸資産	2,562	2,792	230	純資産	6,756	7,193	437
その他	857	736	-120	株主資本	6,594	6,968	374
固定資産	6,702	6,888	186	資本金	1,034	1,034	-
有形固定資産	4,184	4,161	-22	資本剰余金	794	794	0
無形固定資産	311	452	141	利益剰余金	4,787	5,164	377
投資その他の資産	2,208	2,275	67	自己株式	-21	-24	-3
				その他の包括利益累計額	42	100	58
				少数株主持分	120	124	4
資産合計	14,259	14,106	-153	負債純資産合計	14,259	14,106	-153

\*1 従来流動負債に含めて表示していた「固定資産撤去費用引当金」を、今回より「流動負債」と「固定負債」に区分して表示している。(前期末より影響額を組替えて表示)

# 連結キャッシュ・フロー計算書、 設備投資額、減価償却費、研究開発費

## (1) 連結キャッシュ・フロー計算書

(億円)

	10年度	11年度
営業活動によるキャッシュ・フロー①	1,481	1,413
投資活動によるキャッシュ・フロー②	-788	-895
フリー・キャッシュ・フロー③(①+②)	693	518
財務活動によるキャッシュ・フロー④	-261	-910
現金及び現金同等物に係る換算差額⑤	-27	-8
現金及び現金同等物の増減額⑥(③+④+⑤)	404	-401
現金及び現金同等物の期首残高⑦	931	1,344
連結の範囲の変更に伴う増加額⑧	9	15
関係会社の報告期間変更に伴う増加額⑨	-	5
現金及び現金同等物の期末残高(⑥+⑦+⑧+⑨)	1,344	964

## (2) 設備投資額、減価償却費、研究開発費

(億円)

	10年度	11年度
設備投資額(有形)	601	754
設備投資額(無形)	59	97
設備投資額計	660	851
減価償却費	852	796
研究開発費	623	663

## 2. 2012年度業績予想

# 当期の業績予想

(億円)

	10年度	11年度			12年度(予)			増減 b-a
		上	下	計a	上	下	計b	
売上高*1	15,559	7,844	7,888	15,732	8,470	9,340	17,810	2,078
営業利益	1,229	638	405	1,043	450	670	1,120	77
経常利益	1,182	621	454	1,076	460	690	1,150	74
当期純利益	603	382	176	558	255	410	665	107

\*1 今回よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡って売上高から同取引相当額を控除している。(ナフサ転売の取引額:2010年度 424億円、2011年度 397億円)

ナフサ価格(国産ナフサ¥/kl)	47,475	56,950	52,900	54,925	62,000	62,000	62,000	7,075
為替レート(相場平均 ¥/\$)	86	80	78	79	80	80	80	1

	10年度	11年度	12年度
1株当たり年間配当金	11円	14円	14円 (予定)
配当性向	25.5%	35.1%	29.4%

# セグメント別売上高\*1

(億円)

	11年度			12年度(予)			増減 b-a
	上	下	計a	上	下	計b	
ケミカル	3,601	3,200	6,801	3,850	3,970	7,820	1,019
住宅	2,000	2,520	4,520	2,130	2,690	4,820	300
医薬・医療	600	595	1,195	620	690	1,310	115
繊維	561	547	1,108	550	570	1,120	12
エレクトロニクス	775	686	1,461	740	780	1,520	59
建材	222	239	461	260	270	530	69
クリティカルケア*2	-	-	-	230	260	490	490
その他	85	101	186	90	110	200	14
合 計	7,844	7,888	15,732	8,470	9,340	17,810	2,078

\*1 今回よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡ってケミカルの売上高から同取引相当額を控除している。(ナフサ転売の取引額:2011年度 397億円)

\*2 2012年度より「クリティカルケア」セグメントを新設し、ゾール・メディカル社の業績等については同セグメントにて開示する。

# セグメント別営業利益

AsahiKASEI

(億円)

	11年度			12年度(予)			増減 b-a
	上	下	計a	上	下	計b	
ケミカル	341	104	445	220	240	460	15
住宅	179	284	463	180	320	500	37
医薬・医療	56	32	88	45	80	125	37
繊維	21	10	31	20	25	45	14
エレクトロニクス	70	-6	64	35	70	105	41
建材	8	11	18	15	15	30	12
クリティカルケア*1	-	-	-	-15	-25	-40	-40
その他	12	18	30	10	10	20	-10
消去又は全社	-50	-48	-97	-60	-65	-125	-28
合 計	638	405	1,043	450	670	1,120	77

\*1 2012年度より「クリティカルケア」セグメントを新設し、ゾール・メディカル社の業績等については同セグメントにて開示する。

# 当期業績の見通し

セグメント	業績(億円)		見通し
	11年度	12年度予	
ケミカル	売上高 6,801 営業利益 445	7,820 460	原燃料価格の高騰により交易条件が悪化するものの、モノマー系事業を中心に販売量の増加を見込むことにより、セグメント全体で増収・増益となる見通し。
住宅	売上高 4,520 営業利益 463	4,820 500	請負事業において好調な受注を背景に引渡戸数が増加することなどにより、増収・増益となる見通し。
医薬・医療	売上高 1,195 営業利益 88	1,310 125	医薬事業は、研究開発費の増加の影響を受けるものの、骨粗鬆症治療剤「テリボン™」、血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」などの販売量の増加を見込む。医療事業は、ポリスルホン膜人工腎臓「APS™」の販売量の増加などを見込み、セグメント全体で増収・増益となる見通し。
繊維	売上高 1,108 営業利益 31	1,120 45	再生セルロース繊維「ベンベルグ™」、スパンボンド、ナイロン66繊維「レオナ™」などの販売量の増加を見込むことにより、増収・増益となる見通し。
エレクトロニクス	売上高 1,461 営業利益 64	1,520 105	電子部品系事業はスマートフォンをはじめとする携帯端末向けLSIの販売量の増加や減価償却費の減少を見込む。電子材料系事業は需要回復などにより、リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」を中心に各製品の販売量を伸ばし、セグメント全体では増収・増益の見通し。
建材	売上高 461 営業利益 18	530 30	軽量気泡コンクリート「ヘーベル™」をはじめ、基礎事業や断熱材事業の各製品においても拡販を見込むことにより、セグメント全体では増収・増益となる見通し。
クリティカルケア*1	売上高 - 営業利益 -	490 -40	連結子会社化した米国ゾール・メディカル社の業績が新たに寄与するが、のれん代等の償却により、セグメント全体では営業損失となる見通し。

\*1 2012年度より「クリティカルケア」セグメントを新設し、ゾール・メディカル社の業績等については同セグメントにて開示する。

## 3. 参考資料

# セグメント別売上高\*1推移

(億円)

	10年度				11年度				12年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	上期 予想	下期 予想
ケミカル	1,650	1,804	1,737	1,808	1,779	1,822	1,656	1,545	3,850	3,970
住宅	645	1,090	905	1,452	792	1,208	1,090	1,430	2,130	2,690
医薬・医療	287	290	305	281	294	306	307	288	620	690
繊維	265	281	271	271	277	284	272	275	550	570
エレクトロニクス	409	422	384	367	398	378	356	329	740	780
建材	110	124	137	103	101	122	128	111	260	270
クリティカルケア*2	-	-	-	-	-	-	-	-	230	260
その他	35	39	37	49	40	45	44	57	90	110
合 計	3,401	4,051	3,777	4,330	3,680	4,165	3,853	4,035	8,470	9,340
控除したナフサ転売取引額	134	62	162	66	82	96	164	56		

\*1 今回よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡ってケミカルの売上高から同取引相当額を控除している。

\*2 2012年度より「クリティカルケア」セグメントを新設し、ゾール・メディカル社の業績等については同セグメントにて開示する。

# セグメント別営業損益推移

(億円)

	10年度				11年度				12年度	
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q	上期 予想	下期 予想
ケミカル	153	220	166	105	194	147	92	12	220	240
住宅	-9	110	79	185	36	142	109	175	180	320
医薬・医療	33	8	35	-6	26	30	37	-6	45	80
繊維	12	11	13	6	14	7	5	5	20	25
エレクトロニクス	52	55	32	4	48	22	-5	-2	35	70
建材	3	8	13	-3	2	5	9	1	15	15
クリティカルケア*1	-	-	-	-	-	-	-	-	-15	-25
その他	3	5	2	7	4	8	9	9	10	10
消去又は全社	-20	-10	-28	-14	-22	-27	-25	-23	-60	-65
合計	228	407	310	284	302	335	233	172	450	670

\*1 2012年度より「クリティカルケア」セグメントを新設し、ゾール・メディカル社の業績等については同セグメントにて開示する。

# セグメント別設備投資額、減価償却費、研究開発費

(億円)

	設備投資額			減価償却費			研究開発費		
	10年度	11年度	12年度 予想	10年度	11年度	12年度 予想	10年度	11年度	12年度 予想
ケミカル	232	391	500	319	296		155	162	
住宅	63	63	50	43	48		20	21	
医薬・医療	74	107	110	114	115		165	175	
繊維	37	57	110	70	64		32	28	
エレクトロニクス	203	134	200	239	210		184	192	
建材	17	16	15	28	24		11	11	
クリティカルケア*1	-	-	30	-	-		-	-	
その他	10	8	15	9	9		3	2	
消去又は全社	25	76	20	30	29		54	71	
合 計	660	851	1,050	852	796	900	623	663	750

\*1 2012年度より「クリティカルケア」セグメントを新設し、ゾール・メディカル社の業績等については同セグメントにて開示する。

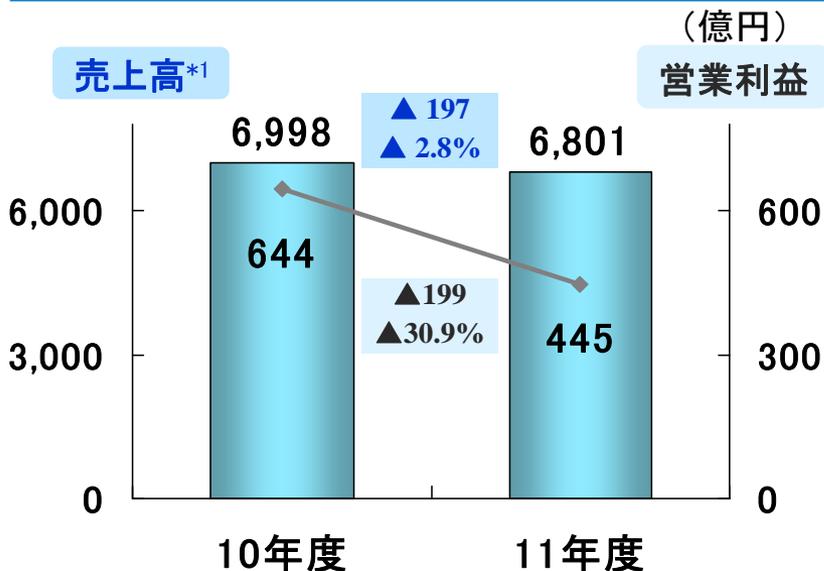
## <11年度完工件名>

- ・「ハイポア™」製造設備能力増強  
(2,000万m<sup>2</sup>/年、1,500万m<sup>2</sup>/年、日向)
- ・医療材料研究所新設  
(10/11～11/6、延岡)
- ・ナイロン66樹脂「レオナ™」の高融点グレード  
量産体制確立のための生産設備改造  
(10/11～12/3、延岡)

○: 投資額30億円以上

## <11年度末時点 工事中件名>

- ・木質バイオマス発電設備新設  
(10/2～12/7、延岡)
- ・スパンボンド不織布の製造設備新設  
(11/8～12/9、2万トン/年、タイ)
- ・アクリロニトリルの製造設備能力増強  
(11/6～13/1、24.5万トン/年、韓国(東西石油  
化学株))
- ・「ハイポア™」製造設備能力増強  
(13/3、5,000万m<sup>2</sup>/年、日向)
- ・溶液重合法SBR製造設備新設  
(11/7～13/5、5万トン/年、シンガポール)



\*1 今回よりナフサ転売取引の会計方針を変更し、過去に遡って売上高から同取引相当額を控除している。(ナフサ転売の取引額: 2010年度 424億円、2011年度 397億円)

## <概況>

### ・汎用系事業

#### <モノマー系事業>

下期以降、中国を中心にアジア需要が後退したことに加え、ナフサをはじめとする原燃料価格の高騰や円高の影響を受け、アクリロニトリルやアジピン酸などの取引条件が大きく悪化したことなどから、前期比減収、減益となった。

#### <ポリマー系事業>

震災の影響を受けたエンジニアリング樹脂が下期に回復し、タイヤ向け合成ゴムも好調に推移したことなどから、前期比増収、増益となった。

### ・高付加価値系事業

イオン交換膜の電解プラントの販売が減少したものの、「サランラップ<sup>TM</sup>」などの消費材事業や添加剤事業が堅調に推移したことなどから、前期比増収、増益となった。

## <トピックス>

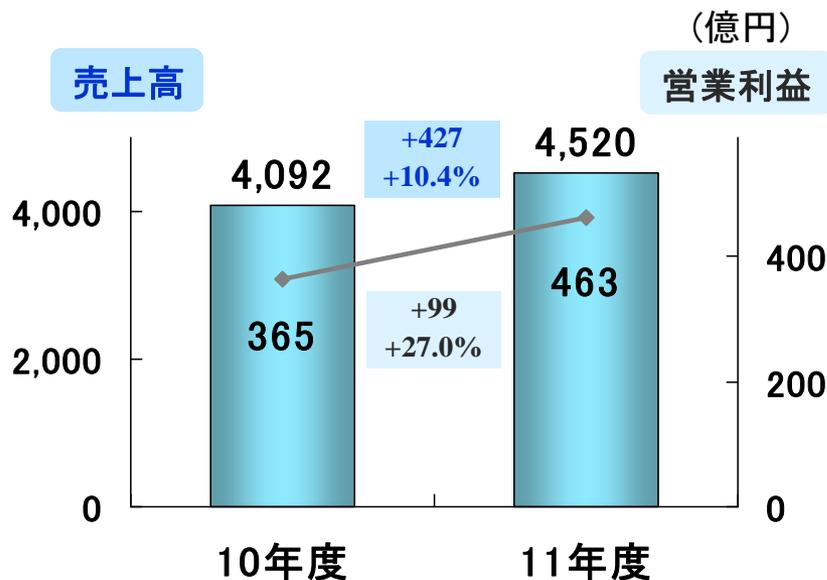
- ・サウジアラビアにおけるアクリロニトリル事業化検討のため、サウジアラビア基礎産業公社(SABIC)、三菱商事(株)と合弁会社の設立を決定。(4月)
- ・研究開発棟「川崎イノベーションセンター」の新設を決定。(11月、2012年9月運用開始予定)
- ・シンガポールでの溶液重合法SBRプラント第2系列の建設を決定。(12月)
- ・独ヴェルナー&メルツ社より「Frosch<sup>®</sup>」(フロッシュ)ブランドの国内独占販売権を取得し、食器用洗剤4種類を発売。(2月)
- ・韓国におけるアセトニトリルプラントの建設を決定。(2月)

### 売上高増減分析



### 営業利益増減分析





## 事業別差異分析

(億円)

	10年度(a)		11年度(b)		差異(b-a)	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益	売上高	営業利益
建築請負	3,021	/	3,396	/	375	/
分譲	278		237		-41	
住宅周辺等	793		887		93	
合計	4,092		365		4,520	

## <概況>

### ・建築請負事業

- ・受注が好調に推移した戸建住宅「ヘーベルハウス™」や集合住宅「ヘーベルメゾン™」の引渡戸数が増加し、前期比増収、増益となった。
- ・建築請負事業の受注高は、政府の住宅取得促進施策の効果継続などにより、順調に受注戸数を伸ばし、前期比4.9%の増となった。

### ・分譲事業

前年に比べ分譲マンションの完エプロジェクトが少なかったことから、前期比減収となった。

### ・住宅周辺事業等

不動産賃貸事業が好調に推移したことや、リフォーム事業が順調に拡大したことから、前期比増収、増益となった。

## <トピックス>

- ・2階リビングと一体となった半屋外空間「そらのま」を提案する「ヘーベルハウス™ そらのま+(プラス)」を発売。(4月)
- ・ペット共生型賃貸住宅「ヘーベルメゾン™ +わん+にゃん」を発売。(6月)
- ・不動産関連事業を統合し、旭化成不動産レジデンス(株)を設立、営業開始。(10月)
- ・2階建プラスアルファの空間で家族の絆を深める都市型住宅「ヘーベルハウス™ スカイコテージのある家 天空こども城」を発売。(11月)
- ・過去に供給したヘーベルハウス™二世帯住宅のリノベーション商品「リメイク 二世帯再生タイプ」を旭化成リフォーム(株)より発売。(1月)

※上記事業別業績数値は参考情報として簡便計算で算出

# 住宅(1)

## 1. 売上高、受注高の状況

(単位:億円、( )内は対前年同期比)

		請負受注高	請負売上高	分譲売上高*1	他*2	関係会社等	連結計	受注残
07	上期	1,536 (▲1.5%)	1,312 (▲2.6%)	50 (▲16.5%)	4	303 (8.2%)	1,669 (▲1.3%)	3,123
	下期	1,525 (3.5%)	1,659 (▲9.3%)	195 (▲15.1%)	5	333 (10.3%)	2,193 (▲7.3%)	2,988
	通期	3,061 (0.9%)	2,971 (▲6.5%)	245 (▲15.4%)	10	637 (9.5%)	3,862 (▲4.8%)	
08	上期	1,571 (2.3%)	1,294 (▲1.4%)	60 (19.7%)	7	343 (13.2%)	1,703 (2.0%)	3,266
	下期	1,339 (▲12.1%)	1,779 (7.2%)	240 (22.8%)	9	369 (10.8%)	2,396 (9.3%)	2,826
	通期	2,911 (▲4.9%)	3,073 (3.4%)	299 (22.2%)	15	712 (11.8%)	4,099 (6.1%)	
09	上期	1,546 (▲1.6%)	1,158 (▲10.5%)	52 (▲12.6%)	8	358 (4.4%)	1,577 (▲7.4%)	3,213
	下期	1,523 (13.7%)	1,665 (▲6.4%)	269 (12.4%)	11	375 (1.7%)	2,320 (▲3.2%)	3,071
	通期	3,069 (5.4%)	2,823 (▲8.1%)	321 (7.4%)	19	734 (3.0%)	3,897 (▲4.9%)	
10	上期	1,817 (17.6%)	1,255 (8.3%)	94 (79.8%)	11	375 (4.8%)	1,735 (10.0%)	3,634
	下期	1,728 (13.4%)	1,766 (6.1%)	184 (▲31.7%)	15	392 (4.5%)	2,357 (1.6%)	3,595
	通期	3,545 (15.5%)	3,021 (7.0%)	278 (▲13.6%)	25	768 (4.6%)	4,092 (5.0%)	
11	上期	1,894 (4.2%)	1,459 (16.3%)	119 (26.5%)	15	406 (8.3%)	2,000 (15.2%)	4,030
	下期	1,825 (5.6%)	1,937 (9.7%)	118 (▲35.7%)	465 (14.2%)		2,520 (6.9%)	3,918
	通期	3,719 (4.9%)	3,396 (12.4%)	237 (▲14.7%)	887 (11.8%)		4,520 (10.4%)	
12予	通期	3,920 (5.4%)	3,550 (4.5%)	270 (14.1%)	1,000 (12.7%)		4,820 (6.6%)	4,288

\*1 不動産関連事業を統合し旭化成不動産レジデンス㈱を設立したことから、分譲売上高は2011年度下期から旭化成ホームズ(株)の分譲事業と旭化成不動産レジデンス(株)の開発事業を合計して表示

\*2 損害保険販売手数料収入等

## 2. 2011年度用途別売上高・売上戸数及び受注高・受注戸数(受注は請負のみ)

(右欄:前期比)

		売上高(億円)		売上戸数(戸)		受注高(億円)		受注戸数(戸)	
戸 <sup>*1</sup> 建 系	低層	2,075	9.1%	6,877	11.8%	2,163	3.3%	7,303	3.8%
	中層	765	20.1%	2,908	14.6%	880	3.9%	3,489	3.6%
	小計	2,840	11.9%	9,785	12.6%	3,043	3.4%	10,792	3.7%
集 合 系	低層	195	24.7%	1,638	15.3%	244	16.0%	1,944	6.3%
	中層	361	10.7%	3,066	6.2%	432	10.1%	3,495	4.1%
	小計	556	15.3%	4,704	9.2%	676	12.1%	5,439	4.9%
合計		3,396	12.4%	14,489	11.5%	3,719	4.9%	16,231	4.1%
分譲事業 <sup>*2</sup>		237	-14.7%	384	0.5%	-	-	-	-
住宅周辺事業等		887	11.8%	-	-	-	-	-	-
総合計		4,520	10.4%	14,873	11.2%	3,719	4.9%	16,231	4.1%

\*1 2011年度より戸建系中層の一部の商品を戸建系低層に移行(前期比についても遡って修正)

\*2 不動産関連事業を統合し旭化成不動産レジデンス(株)を設立したことから、分譲事業は2011年度下期から旭化成ホームズ(株)の分譲事業と旭化成不動産レジデンス(株)の開発事業を合計して表示

## 3. 2012年度用途別売上高・売上戸数及び受注高・受注戸数予想(受注は請負のみ)

(右欄:前期比)

		売上高(億円)		売上戸数(戸)		受注高(億円)		受注戸数(戸)	
戸 建 系	低層	2,118	2.1%	7,020	2.1%	2,277	5.3%	7,680	5.2%
	中層	822	7.5%	3,160	8.6%	928	5.5%	3,680	5.5%
	小計	2,940	3.5%	10,180	4.0%	3,205	5.3%	11,360	5.3%
集 合 系	低層	226	15.7%	1,870	14.1%	255	4.4%	2,040	4.9%
	中層	385	6.6%	3,150	2.8%	460	6.5%	3,730	6.7%
	小計	610	9.8%	5,020	6.7%	715	5.8%	5,770	6.1%
合計		3,550	4.5%	15,200	4.9%	3,920	5.4%	17,130	5.5%
分譲事業*2		270	14.1%	550	43.2%	-	-	-	-
住宅周辺事業等		1,000	12.7%	-	-	-	-	-	-
総合計		4,820	6.6%	15,750	5.9%	3,920	5.4%	17,130	5.5%

\*1 2011年度より戸建系中層の一部の商品を戸建系低層に移行(前期比についても遡って修正)

\*2 不動産関連事業を統合し旭化成不動産レジデンス㈱を設立したことから、分譲事業は2011年度下期から旭化成ホームズ㈱の分譲事業と旭化成不動産レジデンス㈱の開発事業を合計して表示

## 4. 関係会社損益

(億円)

	10年度		11年度	
	売上高	営業利益	売上高	営業利益
旭化成リフォーム	345	37	385	49
旭化成不動産レジデンス*1	404	15	534	25

\*1 2010年度および2011年度上期の売上高・営業利益は、旧旭化成不動産(株)の実績

### <概況>

#### 旭化成リフォーム(株)

(11年度実績)

太陽光発電などの環境対応型商品を中心に改築・改装・設備系工事の受注拡大に努めたことにより、前期比増収、増益となった。

(12年度予想)

人員増強等により固定費負担は増加するが、好調な太陽光発電や大型改装の受注拡大を図り増収、増益を目指す。

#### 旭化成不動産レジデンス(株)

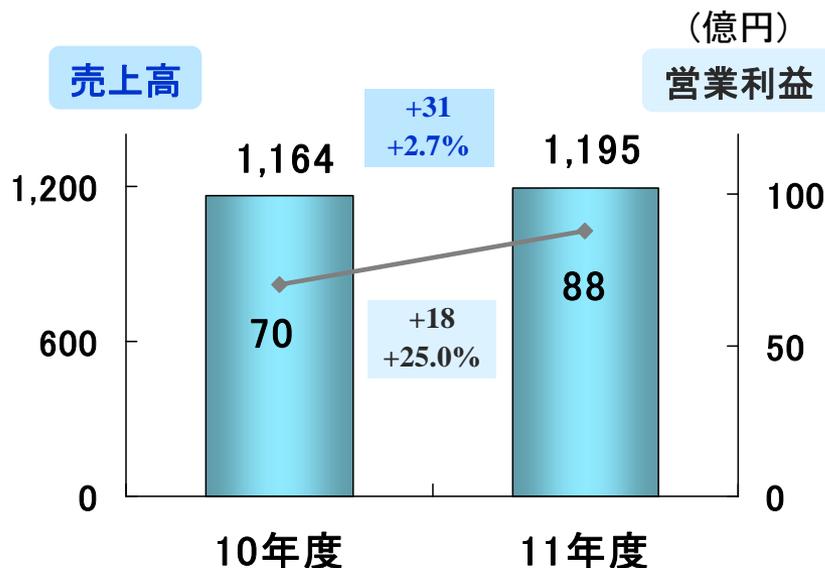
2011年10月1日より、旭化成ホームズ(株)が手掛けていた開発事業(宅地分譲、マンション分譲等)を旭化成不動産(株)へ統合し、新たに旭化成不動産レジデンス(株)として営業を開始。

(11年度実績)

建築請負における賃貸住宅の販売の順調な伸びを受け、一括借り上げ戸数が約43,400戸まで伸びたことを中心に賃貸管理部門の業績が好調に推移し、前期比増収、増益となった。

(12年度予想)

人員増強により固定費負担は増加するが、賃貸管理戸数の増加などにより、増収、増益を目指す。



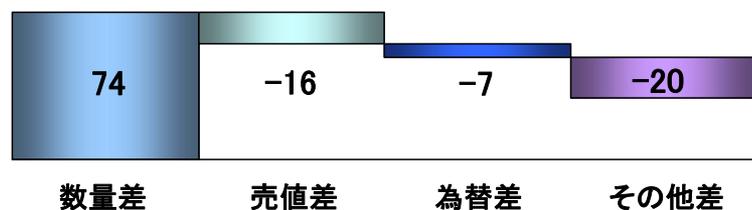
## <概況>

- ・医薬事業は、MR(医薬情報担当者)の増強や研究開発費の増加により固定費が増加したものの、血液凝固阻止剤「リコモジュリン™」や昨年11月に上市した骨粗鬆症治療剤「テリボン™」の販売が好調に推移したことから、前期比増収、増益となった。
- ・医療事業は、各製品が円高の影響を受けたものの、ウイルス除去フィルター「プラノバ™」の販売量が増加したことなどから、前期比増収、営業利益は前期並みとなった。

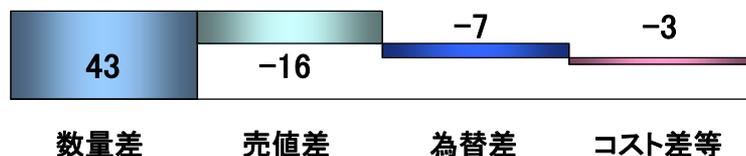
## <トピックス>

- ・排尿障害改善剤「フリバス™」の韓国における販売承認を、韓国の導出先である東亜製薬(株)が取得(4月)。発売(1月)。
- ・スイス・アクテリオン社との訴訟において、アクテリオン社に当社への総額516.6百万ドルの支払いを命ずる第一審判決(8月)。損害賠償額を415.7百万ドルとする第一審判決の修正(11月)。
- ・骨粗鬆症治療剤「テリボン™」の国内製造販売承認取得(9月)。薬価収載、発売(11月)。
- ・医薬研究センター新研究棟の建設を決定。(10月、2013年10月運用開始予定)
- ・血液凝固阻止剤ART-123(日本での販売名:「リコモジュリン™」)の海外での臨床試験を行っている米国アルチザンファーマ社を完全子会社化。(11月)
- ・抗ヘルペスウイルス剤「ファムビル™」(一般名:ファムシクロビル)について「単純疱疹」に対する効能・効果を追加申請。(1月)
- ・緑内障治療薬ATS907の米国における前期第Ⅱ相臨床試験を、導出先である米国バイオベンチャーのアルテオス社が開始。(2月)
- ・骨粗鬆症治療剤「テリボン™」の自己投与可能なパッチ製剤(米国ゾサノファーマ社より技術を導入)の臨床試験開始。(3月)
- ・旭化成クラレメディカル(株)を旭化成メディカル(株)に統合(2012年4月)

## 売上高増減分析



## 営業利益増減分析



## 1. 売上高内訳

(億円)

		10年度			11年度		
		上期	下期	年間	上期	下期	年間
医薬系	医薬	269	286	554	285	298	583
	その他	36	22	58	25	15	40
	計	305	308	612	309	313	623
医療系*1		273	279	551	290	282	572
医薬・医療 計		578	586	1,164	600	595	1,195

\*1 旭化成クラレメディカル、旭化成メディカル、及びその関係会社の合計

## <主要医薬品の国内売上高>

(億円)

	10年度			11年度		
	上期	下期	年間	上期	下期	年間
フリバス <sup>TM</sup>	68	71	139	69	73	142
エルシトニン <sup>TM</sup>	69	65	134	67	57	124
リコモジュリン <sup>TM</sup>	16	26	42	34	39	73
ブレディニン <sup>TM</sup>	33	32	65	32	32	64
トレドミン <sup>TM</sup>	19	16	35	15	13	28
テリボン <sup>TM</sup>	-	-	-	-	22	22
エリル <sup>TM</sup>	7	7	14	6	7	13

## 2. 主要医薬品の説明

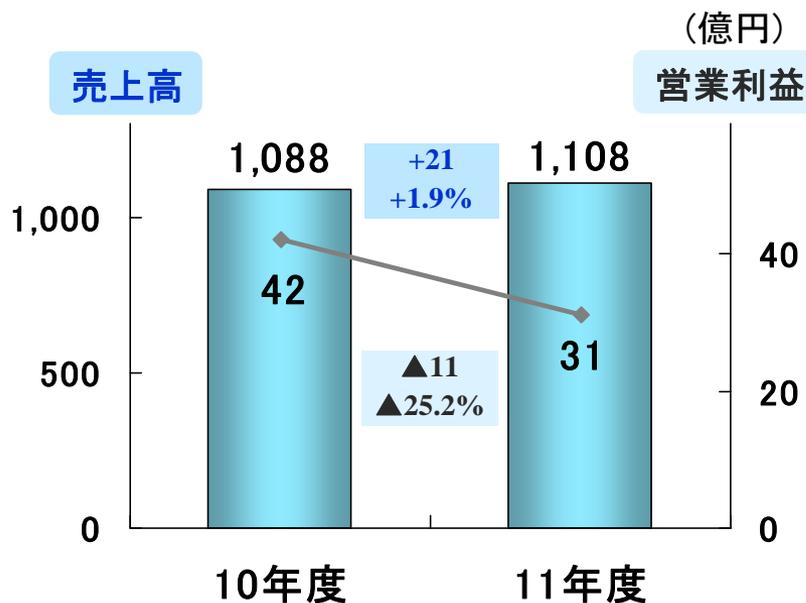
	一般名	薬効・作用の分類	適応症	剤型
フリバス™	ナフトピジル	α1ブロッカー	前立腺肥大症に伴う排尿障害	錠剤
エルシトニン™注 20S エルシトニン™注 20Sディスポ	エルカトニン	骨粗鬆症治療剤	骨粗鬆症における疼痛	注射剤
リコモジュリン™	トロンボモデュリンアルファ(遺伝子組換え)	血液凝固阻止剤	DIC(汎発性血管内血液凝固症)	注射剤
ブレディニン™	ミゾリビン	免疫抑制剤	関節リウマチ、腎移植、ネフローゼ症候群、ループス腎炎	錠剤
トレドミン™	ミルナシبران塩酸塩	セロトニン・ノルアドレナリン再取込阻害剤(SNRI)	うつ病・うつ状態	錠剤
テリボン™	テリパラチド酢酸塩	骨形成促進剤(副甲状腺ホルモン:PTH)	骨折の危険性の高い骨粗鬆症	注射剤
エリル™	ファスジル塩酸塩水和物	ローキナーゼ阻害剤	くも膜下出血術後の脳血管れん縮及びこれに伴う脳虚血症状の改善	注射剤
ファムビル™ (マルホ(株)に販売を委託)	ファムシクロビル	抗ヘルペスウィルス剤	帯状疱疹	錠剤

## 3. 研究開発の状況

		開発コード・剤型 (一般名・「商品名」)	区 分	薬 効・分 類	適 応 症	自社/導入	備考
国 内	申請中の品目	AK-120錠 (ファムシクロビル)	適応拡大	抗ヘルペスウイルス剤	単純疱疹	導入	
	フェーズⅢの品目	AK-156注 (ゾレドロン酸水和物)	新効能・新用量 医薬品	骨吸収抑制剤 (ビスフォスフォネート)	骨粗鬆症	導入	年1回 投与
		AK-160注	新成分新薬	細菌由来の コラゲナーゼ製剤	デュピュイトラン 拘縮	導入	
	フェーズⅡの品目	AT-877錠 (ファスジル塩酸塩水和物)	適応拡大 剤型追加	ローキナーゼ阻害剤	肺高血圧症	自社	
海 外	フェーズⅡの品目	ART-123注 (トロンボモデュリン アルファ 遺伝子組換え)	新成分新薬	血液凝固阻止剤	DIC(汎発性血管内 血液凝固症)を伴う 敗血症	自社	
		AK106	新成分新薬	抗炎症剤	関節リウマチ	自社	

探索・基礎研究

成熟化・高齢化社会の中で、健康で快適な生活を送りたいという人びとの願いに応えるために、整形外科領域や泌尿器領域を中心に「未だ有効な治療方法がない医療ニーズ(アンメットメディカルニーズ)」の解決に取り組んでいます。自社技術の絶えざる革新と、世界の優れた技術とのコラボレーションを積極的に推進し、世界に通用する新薬の創出を進めています。



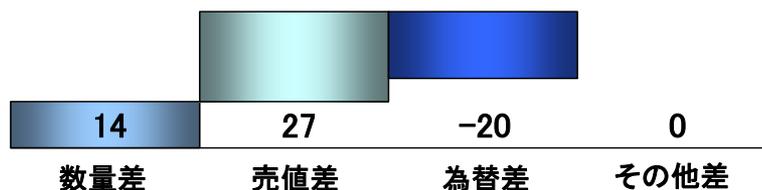
## <概況>

オムツ用途向けスパンボンド不織布や、エアバッグ用途を中心としたナイロン66繊維「レオナ™」などの販売量が増加し、再生セルロース繊維「ベンベルグ™」も堅調に推移したものの、各製品で円高や原燃料価格高騰の影響を受けたことにより、前期比増収、減益となった。

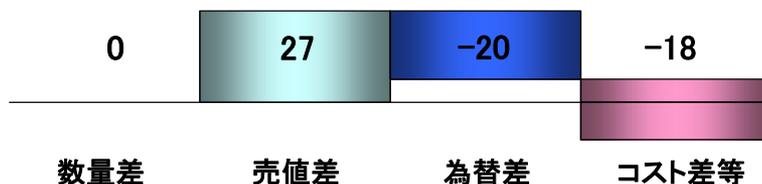
## <トピックス>

- ・ポリウレタン弾性繊維「ロイカ™」の高機能糸と高度な編成技術を駆使し、伸張により発熱する機能を持つ高機能素材「伸張発熱™スパイエル®」を開発。(11月)
- ・旭化成・中国ファッションデザイナークリエイティブ大賞の授与式及びファッションショー開催。(3月)

### 売上高増減分析



### 営業利益増減分析



## <概況>

### ・電子部品系事業

スマートフォン向けミクスドシグナルLSIなどの販売が堅調に推移したが、全体的な事業環境の悪化などによる各製品の販売量の伸び悩みや、販売価格の下落、円高の影響などを強く受け、前期比減収、減益となった。

### ・電子材料系事業

リチウムイオン二次電池用セパレータ「ハイポア™」などの販売量が増加したが、販売価格の下落や原燃料価格高騰の影響により、前期比減収、減益となった。

## <トピックス>

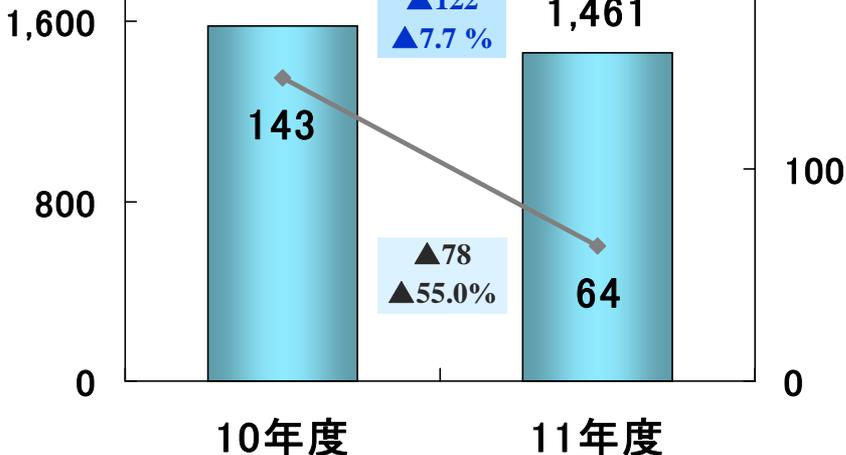
・米国アナログ・デバイス社の加速度センサを集積し、当社従来製品から25%以上の小型化を実現した、携帯機器向け6軸電子コンパス新製品を発売。(1月)

・電源IC事業の体質強化を目的として、生産拠点の統合を決定。(2012年4月)

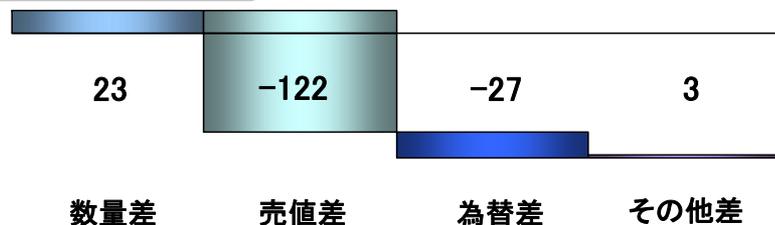
(億円)

売上高

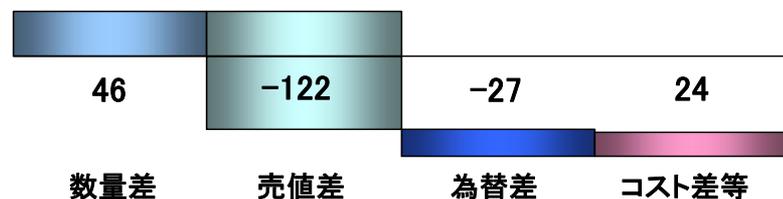
営業利益

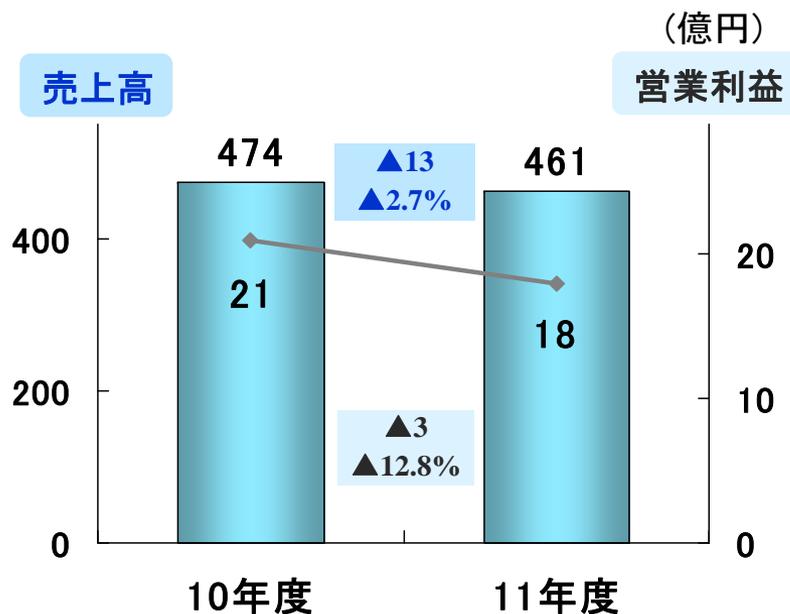


### 売上高増減分析



### 営業利益増減分析





## <概況>

軽量気泡コンクリート「ヘーベル<sup>TM</sup>」が販売量、販売価格共に回復基調にあったものの、断熱材事業において住宅エコポイントなど政策の影響が落ち着いたことや、基礎事業が低調だったことなどから、前期比減収、減益となった。

## <トピックス>

- ・鉄骨造建築物用の柱絞りへの対応など複数機能を備えた高機能柱・はり接合工法「ファブラックス<sup>TM</sup>DS」の販売開始。(2012年4月)
- ・高性能フェノールフォーム断熱材「ネオマ<sup>TM</sup>フォーム」の生産能力の増強を決定。(2012年4月)

### 売上高増減分析



### 営業利益増減分析



# 連結包括利益計算書

AsahiKASEI

(億円)

	10年度	11年度	増減
少数株主損益調整前当期純利益①	617	569	-48
その他有価証券評価差額金	-71	106	176
繰延ヘッジ損益	-0	-16	-16
為替換算調整勘定	-71	-10	61
持分法適用会社に対する持分相当額	-24	-23	1
その他の包括利益合計②	-166	57	223
包括利益(①+②)	451	626	175

(内訳)

親会社株主に係る包括利益	440	616	176
少数株主に係る包括利益	10	10	-1